

防災だより

いますぐ出来るマンション防災

Vol.02

発行 ライフポート西洋

火災発生時の 対応と 避難の基本

火の手から
自分と
周囲の命を
守るために

火災は「最初の3分」が命を分ける！

火災は地震と違い「日常の中で突然起こる災害」。一瞬の油断で発生し、3分以内に天井まで燃え広がることもあります。マンションでは「自宅」「共用部」「上下左右の部屋」など、あらゆる場所が出火源になりえます。今回の防災だよりでは火災への備えと対応について記載します。

1 自宅内で火災が発生したら（初期火災）

【初期対応の手順】

1. 「火事だ!」と大声で知らせる（周囲への警告）
2. 初期消火が可能かをすぐ判断（天井に届く炎は消せない）
3. 消火器・消火用具を使用して初期消火にあたる
4. 119番通報（住所・階・状況を正確に）
5. 消火が困難と判断したらすぐに避難（命を最優先）



消火器の使い方（覚え方：ピ・ノ・キ・オ）



特に気をつけたい「就寝スペース周辺」

自宅内、廊下、階段などの消火器の設置場所を事前に確認しておきましょう。

消火器の対応年数（有効期間・交換目安）は、種類によって異なります。

使用してなくても、期限を過ぎたものは内部の圧力低下や薬剤の劣化により、いざというときに使えない可能性があります。本体ラベルや銘板に「製造年」「使用期限」「点検年月日」が記載されていますので必ず確認してください。

2 共用部・他の住戸で火災が発生したら



焦げ臭い・煙のにおいに
気づいたら即確認



共用廊下や階段で火を見つけたら、
すぐに119番と管理会社へ通報



エレベーターは
絶対に使わない!

3 火災避難時の注意点

行動	理由
ハンカチやタオルで口と鼻を覆う	ガスの吸引を防ぐ(煙は上へ行くため低姿勢)
ドアは開ける前に触れて確認	熱ければその先に火がある危険あり
照明が消えている場合は懐中電灯で足元を確認	停電や煙で視界が遮られる可能性あり
火元階より上階にいる場合は「下階へ」避難	火と煙は上に上がるため、上階への避難は危険
避難後は再び建物に戻らない	二次災害(倒壊・再出火)の恐れあり

4 通報・連絡を忘れずに!

通報先	内容
119番(消防)	火災発見直後に通報。住所・建物名・階数を明確に。
管理会社または管理入室	消防署との連動や館内アナウンスに対応してもらうため。
家族や周囲	安否確認と避難誘導を行う。



5 平時にできる「火災の備え」



チェックポイント	内容
<input checked="" type="checkbox"/> 消火器の場所を知っておく	自室、共用廊下・階段など
<input checked="" type="checkbox"/> 家の中の火元を確認	ガスコンロ・IH・ヒーター・配線など
<input checked="" type="checkbox"/> コンセント周りの整理	ホコリ・たこ足配線の発火に注意
<input checked="" type="checkbox"/> 就寝前・外出前の火の確認	「火の元チェック」が日課になると安心
<input checked="" type="checkbox"/> 室内火災報知設備の作動確認	消防設備点検の協力
<input checked="" type="checkbox"/> 火災時の避難経路を家族と共有	どこから逃げるか、集合場所はどこか

最後に

火災は「自分の部屋が火元ではなくても」命に関わります。
火災は“準備していれば防げる災害”ですので、今一度ご自宅の防火対策をお願いします。

